

## 会議記録

会議名称	第5回 杉並区教育ビジョン策定委員会
日時	平成23年11月11日(金) 午後2時00分~午後3時14分
場所	教育委員会室
出席者	<p>委員 永井、坂野、清水、大浦、鈴木、神谷、藤川、中島、秋山、吉田、玉山</p> <p>区側 教育長、参事(特命事項担当)教育改革担当部長、中央図書館長、庶務課長、教育人事企画課長、統括指導主事、教育改革推進課長、学校適正配置担当課長、学務課長、社会教育スポーツ課長、済美教育センター副所長、教育支援担当課長 ほか関係職員</p>
配布資料	<p>1 教育ビジョン案への主な意見と対応案</p> <p>2 教育ビジョン案</p>
会議次第	<p>1 開会</p> <p>2 資料説明</p> <p>3 意見交換</p> <p>4 今後の進め方</p> <p>5 次回の日程</p> <p>6 その他</p> <p>7 閉会</p>

委員長 時間となりましたので、第5回教育ビジョン策定委員会を開会いたします。

出席状況につきまして、事務局から報告をお願いいたします。

庶務課長 本日、野口委員と松浦委員が事前に欠席とのご連絡をいただいております。その他の委員は既にご参集いただいております。よろしくお願いいたします。

委員長 続きまして、本日の議事録並びに配布資料、これについての説明も引き続き事務局からお願いします。

庶務課長 それでは、資料のご説明をさせていただきます。

委員長 お願いします。

庶務課長 まず、議事録でございますけれども、皆様方から10月7日にご了解をいただきましたので、既にホームページで公開しております。

それから、事前にお配りしました資料でございますが、資料1と2でございます。どちらも前回の策定委員会で決まりました骨子をもとにしまして、委員長、職務代理者のご指示のもと、事務局でたたき台を策定しまして、10月中旬に委員の皆さんからご意見をちょうだいいたしました。これをまとめたものでございます。いただいたご意見につきましては事務局で整理しまして、一部文言修正、文体の統一など、10月のたたき台から趣旨が外れない範囲で文言修正したものについては、資料2で青字により表記しております。これは事務局で若干表現等を直したものでございます。

資料1でございますけれども、今、事務局で微修正をしたもの以外で、今日ご議論いただく資料をこちらのほうで案としてお示ししておりますので、これをもとにご論議をいただきたいというものでございます。

なお、本日席上に1 - 2といたしまして資料を配布させていただきます。こちらにつきましては、先日教育委員にこの案をお示しいたしまして、ご意見をちょうだいいたしました。そこで出された意見をまとめてございます。こちらについても対応案を事務局で配布させていただきましたので、これをもとにご議論いただきたいと存じます。

資料2については、現在の修正した案でございます。今日それをもとにパブリックコメント前の案として、おまとめいただきたいと存じてございます。

進行は委員長にお任せしたいと存じますけれども、今回は今申し上げましたとおり、区民意見の提出手続きの最終案としてご意見をまとめていただきたいと存じます。よろしくどうぞお願いいたします。

委員長 ただいまの説明でもう既におわかりと思いますけれども、この策定委員会の作業、大詰めの段階に入ってきております。可能な限り今日で決めたいと考えております。そのために皆さん方からあらかじめご意見も承っておりますので、それをベースにしながら議論を進めたい。

よろしくお願いたします。

前回、骨子がまとまりましてから、今日本日に至るまでに、私委員長や職務代理者、並びに事務局との間で起草作業を進めました。それを踏まえ、皆さん方のご意見もちょうだいした結果がお手元の資料でございます。100%ご自分のお考えどおりにしているかどうかはともかくとしまして、可能な限り集約するといいますが、ピックアップするような姿勢で行いましたが、何とかベストなものにしていきたいと。今日またいいアイデアが浮かんだらいただくというようなことをお願いをしたいと思います。

それでは、資料の1、横書きのものをしながら、本文をわきに置いて検討していくこととしたいと思います。

全体につきまして、ご意見の中に「文章が少し難しいのではないか。」というのがございました。ちょっといろいろ考えてみたんですが、結論から言いますと原案どおりでご了承をいただきたいというのが私どもの意見でございます。全体を見ていただければわかりだと思いますが、片仮名語を極力排するような努力を傾けておりますし、可能な限りわかりやすいような努力をしたつもりなんですけれども、どうしても専門的な用語、あるいは理念に絡むものがあるものから、やや難しい言葉でも、これを生かすしかないねという限界がございまして、許容の範囲と認めていただくこうと考えておるんですが、ひとつご了承をいただきたいと思ひます。よろしゅうございませうか。

はい、それでは、今度は具体の方向に入つてまいりますが、お手元の横長の資料1のペーパーで、乳幼児期に関連してとても大事なご意見をいただきました。「乳幼児期というのは身近な大人とのかかわりが主なので、『様々な大人の支え』という文言は『周囲の大人の支え』といったような表現の仕方のほうがより正しいのではないか。」というご意見で、いやこれ全くそのとおりですから。

加えてもう一つ、2番、3番、4番で、ご意見をいただいておりますけれども、とりあえず乳幼児期についてはご意見を生かす形で、その次の対応案にありますように、「乳幼児期は、保護者や周囲の大人の支えにより、人格形成の基礎となる学びを行います。」という表現に変えていきたいと。これでよろしゅうございませうか。

さらに言えば、「特に幼児期に入ると、生活の場、他者との関係、興味や関心などが急激に広がり、依存から自立に向かうようになります。」という文言等に変えていくということでおさめたいと思ひます。これで十分に大事ないただいたご意見が反映できたららうと考えておりますが、よろしゅうございませうか。

はい、ありがとうございます。それから、p4上から1～4行目。ご意見は「地域の協働の拠点は学校で、子ども中心の取組みとも読めてしまう。社会教育施設も地域の拠点であるので、

もう少し広い範囲をイメージできる表現がよい。」というものです。

その関係で変えた文言が対応案でありますけれども、「これまでの『まちが育てる学校』の考え方を土台にしつつ、共に支え共に創る『学びのまち・杉並』を目指して、あらゆる人々の参画と協働により、生涯にわたる学習環境を整えていきます。」と修正を加えてみました。これで何となく素直な文章になったように思われますが、どうでしょうか。つまり、子ども中心の取組みと読める余地がどうしても出てしまうというようなことを受けて、例えば「学びのまち・杉並」とすれば、子どもはもちろんだけれども、大人も高齢者も地域の人々もというようなニュアンスがここでもって出てくるだろうということで、このような表現にしてみました。いかがでしょうか。何かございますか。特に異論はありませんか。

はい、ありがとうございます。それから、左端のナンバーから見ると6番目になりますけれども、第 章について。4ページ目の下。「『教育において時代を越えて求められる』というのはどの時代の社会でも求められる力のことか。『教育において』という表現ではわかりにくい。」というようなご指摘がございましたので、修正を加えましたが、これは「教育において」を取り払って、「いつの時代においても求められる」に。本体を見てください。このような形に直すと。これまた極めて素直になったと思いますが、いかがでしょうか。どんなものでしょうか。

はい、ありがとうございます。了解を得たものといたします。

それから、2ページ目のナンバー7になりますけれども、育みたい力の2、「変化の時代をとらえ」という文言ですが、「『変化の時代をとらえ』に関する説明を入れたほうがいい。また、『困難』とは『変化の時代』によって生じる困難のことか。」というご意見や、「『進むべき方向』について見失うことがあるかもしれないけれども、そのときに支えになるのが『自己肯定感』であって、これがたくましく生きる力の源だと思う。原案では『困難・進むべき・向上・律し・立ち向かう・希望』といった、少し内容が重い感じがする。もう少し平易な表現のほうがよいのではないか。あるいはキャリア教育の観点も。」といったようなご意見がございまして、これも大事な指摘でございます。

修正文は「時代の様々な変化の中で、これまで歩んできた道を踏まえつつ、自らの進むべき方向を模索して柔軟に立ち向かい」というような文章に変える案を出しましたが、ここで皆さん方をお願いしたいことは、「たとえ困難に遭遇しても、」というのを括弧の中に閉じ込めてあります。これは生かしたほうがいいのか、取り払ったほうがいいのか、少し悩ましいところがあったものですから。私は残したほうがいいのかなど思ったり、いやいや、なければそれで済むねと思ったり、ちょっと揺らいでいるところがあるんですけども、この辺は皆さん、いかがお考えですか。「たとえ困難に遭遇しても」、ですから「困難に立ち向かう」という表現じゃなくて、そういうようなことがあったとしてもといった感じになっているので、入れる手もあるかな

という見方もあるし、なければならぬという。お願いします。

委員 文章表現の読み取りになってしまうんですけども、これを受けている語が終わりのほうにある「立ち向かい」という言葉ではないかなと思いますので、ここにその言葉が入ってこないという立ち向かう対象が、例えば変化の中で立ち向かうとか、踏まえつつ立ち向かうというものもあるのかもしれませんが、実際に困難に対して立ち向かっているんだというトーンを残すためにはあったほうがいい。

委員長 「立ち向かう」という言葉がある以上、それに対応する文言として置いたほうが素直になる。確かにおっしゃるとおりですね。残しましょうか。括弧の中を括弧を外して使うようにしましょうか。「たとえ困難に遭遇しても、」は生かすと。「たとえ」があることによってややニュアンスがまた膨らみを持ってくるところもありますので。じゃ、これで行かせてください。ありがとうございました。

第 章に移ります。

委員 すみません、委員長。

委員長 どうぞ。

委員 よろしいですか、すみません。今のところは僕もずっとそれで行けるのかなと思うんですが、やはりその前の「時代の様々な変化の中で、」という表現が僕の中ではすっこないですね。表題の「変化の時代をとらえ、」という言葉があって、その下にまた「時代の様々な変化の中で、」というのは、委員の皆さんの中ですっくと行くなら、別に僕だけなのかなと思うんですが。

例えば「変化」というのを取って「様々な時代の中で」とか、もっとクリアな、同じことを示す説明になるのかなというような気はするんですけども、いかがでしょうか。

委員長 見出しとの関係も含めてというご意見ですか。

委員 はい。

職務代理者 ちょっとよろしいですか。

委員長 お願いします。

職務代理者 今ご指摘いただいたのが、育みたい力の2のところのタイトルが「変化の時代をとらえ、たくましく生きる心と体の力」という形になっていて、恐らく修飾語が入っていてすっくと行かないということなんじゃないかなと私も読んで思うんですね。「様々な」という言葉がついていて、これを例えば今と同じで括弧で閉じ込めて、「時代の変化の中で」というと多分すっくと言葉として落ちやすいんじゃないかと思うんですね。様々な変化というか、時代の変化ということで多分意味はわかってくる。

委員長 大きくくりしちゃうと。

職務代理者 はい。

委員長 なるほど。

職務代理者 なので……

委員 そういうことなんですが、「変化の時代」というのと「時代の変化」というのがもともとニュアンスが違うよということを前のときに。これ述べるとまたかなりの時間を使ってしまうということを理解しての意見で、逆にになってしまうのがどうなのかなというところなんです。統一したほうが、表現的に統一感を持ったほうがいいのか、ちょっと違うニュアンスになるようなので。

職務代理者 なるほど。確かに統一をしたほうが落ちやすいのは落ちやすいですね。上のほうでいうと、恐らく時代は常に変化するということを書いている。下のほうからすると、今の時代が、非常に変化が激しいということのニュアンスが強くなってくるんだと思うんですね。それをどちらのほうで書いてらっしゃるんですかということへのご質問ということに多分なると思います。

委員は今、どちらのほうでそろえたほうがということでお考えなんでしょうか。

委員 すみません。僕自身は、くつがえすようなのですが、変化の時代ではなくて、時代の変化というようなとらえ方のほうがいいのかなどは思っているんですが、前回の策定委員会ときに委員長からもう教育用語では変化の時代というのが使われているよというお言葉をいただき、それはぐっとわかるところがあるので、そこは動かさずに、この下のほうを少し変えたほうがいいのかなどは。

委員長 それでは、第3案として、ちょっと待ってね。

職務代理者 「様々な」を取ってしまいませんか。「変化の時代の中で」という形でいきましょうか。

委員長 「変化の時代の中で」というのが一つの案。それから、「今後の激しい変化の中で」というのは使ってもいいかなと思ったのですが。つまり、今の状況というのは、時代は常に変化するような一般的な状況ではなくて、グローバル化、情報化、少子高齢化、環境問題、さまざまなものも含めて、これからは場合によると先行き不透明と思われるくらい大きな変化が待ち受けている時代になってきている。そういう中であってもしなやかに、かつ立ち向かっていくような力が求められるんだよというニュアンスが実は込められていると考えていいと思うのですが。見出しはともかくとして、これからはいろんなことが起こると。現にもう既に起きていますよと。それがもう何か場合によると人類が見たことのないようなことがあるかもしれない。といったようなニュアンスを込めて実は書かれていると理解をしていただければ、「今後の激しい変化」といったような使い方も可能かなと。あるいは、そんな激しいだの何だの書かないで、「変化の時代」という見出しと合わせる形ですと行っちゃうという手もあるだろうと。

今、職務代理者と私では、私のほうがややにぎやかだと思うんです、言葉の上では。

委員 単純に言い方をちょっと変えているだけかもしれませんが、「時代が変化していく中で」という感じだとわかりよいかと少し素直に思います。

委員長 ちょっと番号を振ってみたので、1、2、3、わきのほうに。2は確かにごちゃごちゃしていますね。1は見出しと同じになっちゃう。3が見出しを踏まえてずっと書かれているというふうな理解の仕方。

職務代理者 なるほど。

委員長 3番、いかがですか。

職務代理者 3番が一番よさそうですね。

委員長 1番だと見出しと同じものをいきなり使っているという限界がある。2番目は今後激しいだろうという言葉を使って、その辺まで言う必要はないのではないかといったような言い方になっている。3番が同じことを素直に再現しているというふうな見方ができるかと思えますけれども、どうですか。これで行きましょうか、3番で。

委員 いいですか。

委員長 どうぞ、はい。

委員 今の時代が特別変化の激しい時代だという設定ですよね。その時代の中の変化が激しいことと、時代が変化していく、違うのじゃないのかと。「時代の」であれば合うのかもしれないです。

委員長 時代の変化の中で。

委員 ただ、これ「様々」を取っただけの話です。時代と時代での変化ではなくて、今の時代の変化が激しいわけですね。

職務代理者 1番の中にここで「激しい」を入れる。

委員長 1'として「変化の激しい時代の中で」のような。

委員 すみません。委員の話を受けての話なので。委員は時代の変化はいつでもある。特別今の時代の変化が激しいというわけじゃないという思いですよね。ところが、委員長の話は、いろんな時代はあるけれども、今の時代は特に変化が激しいという意味ですね。

委員長 そうです。人類歴史が始まって以来と言っていぐらいの大きな激変の時代に突入していることは間違いのないというのが認識です。それは中教審の答申、もしくは中教審以外の各省庁やさまざまなペーパーなどでしきりに触れられている言葉だと思いますし、そういう認識のもとに多くの人々がなっているという前提で申し上げているんですけれども。

委員 その辺の認識だけは統一しておいたほうがいいのじゃないかと思うんですよね。江戸時代と今じゃ全然違いますね。

委員長 それはそうですね。

委員 毎日の生活もそうだし、1年の生活も全然違いますから、それだけは確認すると答えがおのずと出てきちゃうような気がするのですけれども。

委員長 1'か。

職務代理者 そのほうが、恐らく委員長の考え方には近いのかなという気はいたしますね。

委員長 1'、いかがですか。

委員 僕はこれはそういう順番のままのほうがいいと思いますので、そこに「激しい」が放り込まれるほうがまだいいかなと思います。

委員長 じゃ、それで決着ということとさせていただければよろしいです。よろしく願いします。ありがとうございました。

それが、終わって9番がまだか。

職務代理者 8番も。

委員長 8番もまだ。これは8番、育みたい力の2について、「『進むべき方向』は見失うこともあるかもしれないが、その時に支えとなるのは『自己肯定感』であり、これがたくましく生きる力の源だと思う。原案は『困難・進むべき』云々といったような、少し内容が重い感じがあり、もう少し平易な表現はできないだろうか。」というようなことを受けて、「これまで歩んできた道を踏まえつつ、自らの進むべき方向を模索して柔軟に」というのをに入れて、要するにしなやかに生きるというのめたくましさのうちの一つだよといったようなニュアンスを込めて使っていますが、これもうなずいていただけるのではないかと思うのですが。

つまり強さというのは剛の面、柔の面、双方の面で必要だろうというようなことを意味し、かつ模索という表現を入れることによって、そこでしなやかに、あと柔軟にというニュアンスが生かされている。かたい表現がやわらかくなったり、やや幅広にとらえていることになるだろうと判断し、こう直すのは、いかがでしょうか。つまり、世の中には強い人間ばかりではない。いろいろ悩み、模索し、柔軟にと、いろいろあるんだという。けれども、やっぱり立ち向かっていってもらいたいねというニュアンスが込められているというふうに理解できているのですが、いかがでしょうか。

職務代理者 よろしいんじゃないでしょうか。

委員長 はい、では、その下、9番、今の文言の中に入れるような感じで、2番で取り込んでありますので、これも同時にクリアされたというふうに理解したいと思います。

職務代理者 すみません、一つよろしいですか。

委員長 はい、どうぞ。

職務代理者 育みたい力の3番目のところなんですけれども、「豊かな感性をもち、感動を分



かち合う力」のところで、何となくここだけリズムが悪いなというのをちょっと感じていたんですね。「感じ取る力や感動する心など豊かな人間性の基となる感性を磨き、何事にも関心を持って行動する姿勢を養うとともに、」の後ろのところなんですけれども、タイトルがやっぱり「感動を分かち合う力」というのですから、それがうまく重みを持って表現されるようにということで、むしろ順番をそこで取りかえて、後ろのほうに書いてある「自己を高め」というのを前に持ってきて、「養うとともに、自己を高め、他者と感動を分かち合う力を育みます。」というような言い方のほうがよいのではないかなということで、これを提案させていただきたいと思います。

委員長 ありがとうございます。いかがでしょうか。

実は、この部分は今日机上に配布された資料1 - 2の2番目にあるものにも対応する感じになっています。つまり、もとの文章では「自己を高めていく力を育みます」となっているけれども、見出しの「育みたい力」と一致していないではないか。言われてみればおっしゃるとおりで、そんなつもりは私もなかったんですが、文章の流れのあやからこうなってしまったというのがありますので、入れ替えをすることによって、見出しとの整合性も合ってくる。このご指摘は大変貴重なご指摘でした。

それと、ほかの「育みたい力」との文章の構成上の整合性を含めて、このほうがいだろうと考えましたけれども、それも含めてです。どうでしょうか。特にご異論はないようですね。ありがとうございます。じゃ、これをクリアしまして10番に移るわけですか。

職務代理者 そうですね。

委員長 「『連続性』と『きめ細かさ』の重視のところに、『特別な支援を必要としている個人に対しても』というふうにつけ加えられないだろうか。」というご意見でしたが、ここでは後段にあります「一人ひとりが学びをより深めていくには、個に応じた」とある文章を、「学びをより深めていくためには、一人ひとりの成長や発達に応じた」というふうに変えると、このご意見、反映できると考えました。とても大事なポイントですけれども、こういうふうに変えればクリアできるだろうと思うのですが、どうでしょうか。

「特別な支援を必要としている個人に対しても」というニュアンスがというご意見、もしくはそのニュアンスがこの表現によって包含されるといいたいでしょうか、というふうな理解の仕方ができようかと思いますが、よろしいでしょうか。

はい、ありがとうございます。その次が図のところにご意見を幾つかいただいております。11、12、13、14、すべてそうなんです、まず1つ目が「循環」と「連続性」の図。「一番右にある『学びの成果の還元』という語がどの矢印にかかっているかわかりにくい。」というのを、もう一つの別紙というペーパーを見て比べてみてください。一番右端に小さくなっているところで、内側に閉じ込められてあった「学びの成果の還元」というのを外に取り出して、矢印でつな

がっている。これでそこはかとなるといえましょうか。

実はこのイメージ図というのは100%完全に、つまりパーフェクトにはでき得ない側面がどうしてもあるものですから。でも、そういえばそうだねというところがあり、このほうが大変素直だろうと思います。よろしいですか。

それから、同じ図について「『生涯学習・社会教育』の矢印の下にある2つの長方形の意味がわからない。」というものです。右端のところにつながってなくて、ぽつぽつというふうな感じになっているでしょう。これどういう意味だという。確かにこれは余り深い意味がないのでつなげてしまうという。これはよろしいですね。1本の矢印にするということです。

それから、「『協働・パートナーシップ』から上に向かって矢印の意味がわかりにくい。」というのは、「きめ細かな支援」の語を移行することでどうでしょうか。「きめ細かな支援」というのがもとの図では左サイドにありますけれども、それを「協働の基盤」の上のところに、支えるところに置いたというふうになっているんですが、これでイメージとしてはおおむね合っていくという処理の仕方をしました。

それから、これも大事な指摘だった14番、「『協働・パートナーシップ』の部分に『社会教育施設』とか『企業・ボランティア・NPO』といったような要素を加えてほしい。」というご意見は、これは私の意見ともかなり合致をしております、協働にはさまざまなものがありますよと。そしてその中には行政と行政外とのパートナーシップというのも加わってくるわけですから、ここに「行政」「学校」を真ん中に挟むようにして、「地域」と「家庭」を両わき、そして全体的に「社会教育施設」「町会・自治会」「NPO・ボランティア」「企業」をみんな協働の基盤としてあるんだと。言ってみれば、行政と学校以外はソーシャルキャピタルみたいなものですね。しいて言えば商店会なんて入ってくるのかもしれませんが、おおむねこれで地域の協働の基盤の代表的なものがカバーできるだろうし、こういうふういきめ細かいところと、下支えの部分として、いわゆるソーシャルキャピタルとしての部分が明確に打ち出せるだろうと思うんですが。

これもどうでしょう。前は「家庭」「学校」「地域」だけだったんですけども、この部分を「NPO」「企業」等も含めた、あるいは「社会教育施設」、実はこれ教育委員会の所管なわけですから、ずばり支えなければならぬわけで、これも織り込むというような形で「協働の基盤」という言い方にします。きめ細かくなつたと思いますが、どうでしょうか。

こんなに入れたら見にくくなるんじゃないかというようなことをちょっと心配したんですけども、書き込んでみるとそうでもないんで、私としては安心をしています。これご意見ございませんか。

委員 すみません。

委員長 はい、お願いします。

委員 このところで、よく地域という言葉をつらえていく定義があると思うんですが、ここに家庭、行政、学校、地域とあって、かつNPO、ボランティア、企業、町会・自治会、社会教育施設という、この地域というものにもしかしたら全部ひっくるめられて考えられるものでもありますよね。今下に掲げられたもの。そこの違いというか、そこら辺はどう考えておられるんですか。

委員長 それを言い始めると大変な議論になりかねないんですが、要するに地域というのはまさしく空間ですよ。したがって、例えば地域密着型みたいな感じの町会。NPO・企業あたりは時間型ですので、あるいはテーマ型、ミッション型というもので、当然にエリアとしての地域を超える場合があるんですよ。ですから、一応NPO・ボランティア、企業も地域に入るといえば入りますが、やや違う。ミッション型、現代型、テーマ型という感じで、これはある種時間型といえば、他方の地域、もともとの地域、共同体というのは空間型というふうになってくる。これはオーバーラップしているのがコミュニティーというものだろうと思うんですけども。

これはいろんな定義がありますけれども、それを大まかに言えばそういうことになるので、そういうことを言い始めるとえらく大変なことになっちゃうので、代表的なものを並べておいて、しかもちゃんと地域のほうに町会・自治会と入ったり、まさしく地域にある空間である施設が入ったりし、そして他方には比較的時間的もしくはミッション型ととらえればNPOなどという、そこで少し区別しているかなというニュアンスなんですけれども、何しろ代表的なものが入っているという理解の仕方でいいんじゃないかと思うんですけども、どうでしょう。これ以上踏み込むと論争になっちゃうものですから。

職務代理者 今、委員長がおっしゃったように、必ずしもこれが普通に横並びの関係であるということの意味しているわけではないので、その違いを出すために多分わざわざこの枠を狭くしたとかいうのを考えているということだと思っただけです。

今おっしゃられたように、地域の中に入るものもありますよねというとらえ方も当然できますけれども、主なものをここに挙げていうふうにご理解をいただければよいのかなと。そこに特に加えたところについては、こういった人たちも関係していますよねということに例示しています、というふうにご理解いただければいいのかなと思うんですよ。本当だったら「…」とか「etc.」とか「などなど」みたいな形のものが入るんでしょうけれども、あくまで模式図みたいなものですから、そういった形でここで整理をさせていただいているということで、ご理解いただければなというふうに思います。

委員長 ありがとうございます。よろしいですか。

委員 はい。

委員長 どうぞ。

委員 この図のところは、私は、一応循環と連続性の図というような形でとらえているんですが、実際にこの図の中には循環という言葉と連続性という言葉が出てこないで、ここにある還元というのが私たちがイメージしている循環の要素になっているものだというような共通認識でいいのでしょうか。それから連続性の部分は乳幼児教育、学齢期、成人期に向けての図が全部つながっていて、上がっていつているというところに連続性という部分が、言葉としては出ていないけれども、図として表現されているというような見取りでいいのでしょうか。そのところを共通認識したいなと思うんですが、いかがでしょうか。

委員長 左上のほうの青い線が連続性ですよね。就学前から学校教育、成人教育に向かって連続性ですよね。内側にある緑の線が循環の図になってくる。こういうイメージなんですよ。わかりますか。

庶務課長 前の図だと色が多くてわからなかったので、循環と継承のところを色分けするように修正しました。

委員長 ですから、ここにわざわざ循環と連続性という、例えば見出しやら何やらとあまり入れないようにした。

庶務課長 そうですね。

委員長 それまで述べていることの全体像を大まかなイメージとしてあらわしたものであるし、イメージ図というのは100%再現できることは不可能であるということを前提に、大まかに理解するのに便利かなという意味で、とりわけパンフレットなんかつくるときにはこれが効力を発揮するだろうというようなニュアンスで、なければならぬで済むんですよ。この手のペーパーは文字だけでも構わないわけで。ただし、これは視覚的に理解をしてもらうツールとしてこういうものがあるほうがよりわかりやすいだろうと、そういう位置づけですので、すべて全部この中に網羅されているという言い方をしないほうがいいと思います。

委員 そうしますと、例えば還元の連続が循環であるというような見方もこれでできますでしょうか。

委員長 できますね。表裏の関係であるという言い方もできますし。

委員 わかりました。

委員長 すみません。これでクリアしたいと思いますが、よろしいでしょうか。15番、3ページをお開きください。「かかわり」の図についてというところでのご指摘が、「『かかわり』と『つながり』をあらわしているのか、各主体をコーディネートする必要がある（誰が？）ということなのか、何が言いたいのかわからないから補足的に説明が必要ではないか。」というご意見なのですが、ここでは文言を変えました。前の6ページの一番最後のところに「『つながり』と

『かわり』を重視した教育は、『人』や『施設』、『情報』、『しくみ』による、横断的な取り組みを要として推進していきます。」というような表現にして、このご指摘がクリアできるであろうというふうに考えて文章化したんですけれども。

ただ、位置がよくないね。図と……

職務代理者 説明がね。

委員長 説明文の同じ場所にくっついていないから。これは後で工夫しましょうか。構成上のことですので、文言修正と一緒に。つまり、このかわりの重視という部分の文章説明は、次のページの図と同じページに来るように、調整しながらどこかで工夫をしましょう。余白を入れるとか。

参事 これはページ割とか実際には挿絵等が入りますので。

委員長 移動しますか。

参事 はい、それは修正します。

委員長 なるほど、了解しました。できるだけというか、同じペーパーの中に文章とイメージ図が入るような処理の仕方をしたいと思いますが、これでいかがでしょうか。

委員 すみません。

委員長 はい、どうぞ。

委員 この図の学校とか家庭とか行政とか地域というのは、それぞれの丸を意味していることになりますよね。その外側にあるものではなくて、この丸自体を意味しているのでしょうか。

委員長 そうです。

委員 となると、やはり丸の中に、例えば学校であれば濃い紫の字にして入ってくるとかしたほうがわかりやすいのかなという気がしました。

もう一つ、ここでもまた地域が出てくるのですが、先ほどの図では地域とそれにかかわるボランティア等と表記されていたわけなんですけれども、2つの図の用語の取り扱いで若干違いが出てきてしまうというところが心配なんですけど、どうでしょうか。

委員長 ただ、これとこれの整合性を保とうとは余り考えてないんですよ。

委員 そうですか。

委員長 これはこれのイメージ、これはこっちのイメージなんですけどね。いかがでしょう。ただ、カラーコーディネートは工夫の余地があるかもしれません。これはプロの世界の話になっちゃうので、ご指摘は承っておきたいと思います。要するにカラーコーディネートをもうちょっと目立つようにするとかという、そうですね。何か表現を変えたほうがいいところはありますか。

職務代理者 学校と家庭のところはコーディネートだけがないんです。家庭と行政があって、

行政と地域があって、地域と学校があって。

委員長 学校はここで重なっているんです。

委員 家庭と学校をつなぐコーディネートがないという意味ですね。

委員 すみません。PTAです。

委員 そうですよ。あえてコーディネートではなく、これをもうちょっと密着したような。

職務代理者 何をイメージしてやるかというところがポイントなので、これ以上複雑にしたいくないですね。できればコーディネートのところもつながりということがこの図ではあらわせないんで、多分こうやって今お書きいただいているんですけども。これだけではなくて、いろいろな人がかかわっているよねという、あるいは機関がかかわっているよねということを示しているわけですので、別にそれがわかっていたらければ複雑じゃないほうがいいだろうなというのは思っているんですけども。

せっかくなので、コーディネート機能は非常に今重要なことですから、加えていただいているということでもいいのかなとは思いますが。

委員長 視点を変えるとこういうイメージ図もできるし、また視点を変えるとこういうのも成り立ってくるよ。これとこれは完全につじつまが合わなきゃいけないなんて言われると、ちょっとつらいんですよ。そうでなくて、別の角度から見るとこういうふうなイメージになるよ、別の方向から見ると、連続性を重視するとこういうイメージになるというような形であって、これは整合性がないとおかしいじゃないかと言われるとつらいんですよ。よろしいでしょうか。

委員 すみません。

委員長 はい、どうぞ。

委員 ちょっと小さいところなんですけれども、前回いただいた表の中の施設という中に子供園というのがあったんですね。今回の表の中にはなくなって、子供園というのは幼稚園の認可を継承しますので、学校の中に含まれるということで消えたのかなと思うんですが、今、区立幼稚園が順次子供園に転換されていて、25年度には全幼稚園が子供園になるわけなんです。でも区民の方には余り知られていない名称であり、今後、杉並区の就学前教育の充実を推進していくのは子供園だと考えていますので、やはりここは含めずに、子供園というものを出していただいて、次の取組み例の就学前教育の充実というところにもあるように、そこがわかりやすい表記になったほうがいいかなと思います。

委員長 わかりました。確かに子供園は入れませんか。入れていいでしょう。だから幼稚園、保育園なんていうよりも、子供園が一つ入っていれば両方ともカバーできるわけですよ。学校の中に入ると言えば幼稚園は入るけれども、保育園は入らないことになっちゃう。ですので、左上の施設、学校、図書館、児童館などのところに子供園を入れる。いいでしょう。

委員 幼稚園、保育園は入れなくて大丈夫ですか。

委員長 子供園で代表しちゃいますから。両方の機能を持っていますので。正確に言えば幼稚園も保育園も子供園もみんな入れなければいけないということになるんですけども。

職務代理者 挙げ始めると切りがないので。

委員長 でも、お気持ちはわかりますので。

職務代理者 そうか、3つずつ並べたのね、これね。

委員長 そうですね。

職務代理者 いいですよ、3つにこだわらなくても。

委員 すみません。

永井委員長 どうぞ。

委員 申しわけありません。余り大勢に影響ないかもしれないですが、今の図の人のところで、社会教育主事、民生・児童委員、スクールソーシャルワーカーってあるんですけども、青少年委員を入れていただきたいというのがまず一つ。青少年委員も入れていただければ教育ビジョンらしくていいかなと。

あとしくみのほうなんですけれども、しくみの一番下に地域教育推進協議会があるんですけども、こちらは今これにかわっていきこうという方向にはあると思うんですが、今現在、地域教育推進協議会をやっているのは23中学校中1校だけで、あとは全部地域教育連絡協議会というのでいたしておりますので、もし今、すんなり受け取られる形とすれば、それなどを含めていただけるとうれいいかなと思います。図式の中とは関係ないことかもしれないのに、申しわけないんですけども、ご一考いただければと思います。

委員長 それはちょっと知らなかった。1校しかないんですか。そうですか。でも、地域教育推進協議会という表現は連絡協議会……。

委員 連絡協議会というのが今現在主流なものです。

委員長 今のところ主流なので、そちらのほうの方がわかりやすい。区民の皆さんにも。

委員 ただすみません、もう少し細かく説明しちゃいますと、地域教育連絡協議会というと、あとは児童館さんが主体でなさっている地域子育てネットワークですとか、そういったのも並列でもしかしたら出てきちゃうと、たくさんになっちゃうのかなと。そういうものも全部ひっくるめて一つの組織にしましょうというので、今立ち上がったのがこの地域教育推進協議会ですので、これ一言で言えばそれが網羅される。

委員長 ですよ。

委員 はい。ですが、今現在実際稼働しているのはこれが1校だけで、新年度にもう1校増えるという話がありますけれども、23校全部になるまでにはまだかなり先かなというふうにとらえ

ているんですけども。

委員長 ご意見賜りました。ただ、それをやると、さっきの幼稚園と幼稚園と保育園などとの整合性に欠けてくるものですから、これは今のままでいけませんか。こうなんですよというので教えてあげる機会が増えるということで、かえってPRになるかもしれない。

委員 一応このコンセプトは10年先を見越しているということなので、10年経つうちにはすべての地教連が地教推に変わっていくのではないかという.....

職務代理者 見込みね。

委員 希望的観測のもとに。

委員 こういうものも含まれるのかなというところもありますので、またここに今現在機能しているものを入れていくのも大事なかもしれませんけれども、やっぱり10年先を見ているんだよというところを含めると、このままでいいのかなという気がします。

委員長 ありがとうございます。さっきの幼稚園との整合性の関係も含めて、そのほうが、いいのかもしれない。

委員 大丈夫です。

委員長 いいかもしれないと思いますが、そのようにいたしたいと思います。時間が大分たってまいりましたが、そのようなところでクリアさせていただきます。

それから16番、「『特別支援教育の充実』」というのが取組み例の中にあるけれども、本文の中にそれを入れることはできないか。」とおっしゃるんですが、この趣旨は現在の文章に既に取り込まれておりますので、特につけ加える必要はないのではないかと考えまして、原案どおりでいきたいという書き方をしているんですが、すべての子どもたちへの切れ目のない成長、学びの支援を行いということに包含されているという理解をしていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

それから、17番の「大学生や子どものいない人が自分も主役であると感じられるように、誰がどの役割で、何の責任を持っているのかを書き足すことはできないか。特に自分は関係ないと思っていた区民が自分も主役であると感じられればいい。」というご意見。ごもっともなんですけれども、これちょっと処理が大変なんです。文章が長くなってしまいますし。そのため、これも原案どおりでいきたいのですが、誰もが主役ということでクリアできるだろうと考えておりますが、どうでしょうか。はい、ありがとうございます。

それから、本日の机上配布されていた資料1 - 2をクリアしたいと思います。

先ほど育みたい力の3番目の文章上のつじつまが合わないし、表現も変ではないかというのは既にクリアしておりますので、2番目のものは外しまして、まず育みたい力の1について、「『自分のもつ特性や能力に気づき』とあるが、最近、自己肯定感が低い人が多く、自らの特性



や能力に気づくことが難しくなっている。自らの特性や能力は、むしろ他人が気づくものではないか。」というご意見が出されております。一面ではもっともなご意見だと思っております。

そこで、ペーパーではここに書いてあるとおり、「多くのかかわりや経験を通して、」という文章を入れ替えることによってこの趣旨が生かせると考えました。いかがでしょうか。これは意外と簡単に文章の入れ替えでおっしゃる趣旨がずっと入るという、変更も挿入もなく済むという、極めて素直に受けとめて反映することができたと考えております。ご理解ください。了解はい、ありがとうございます。

次は 章についての上から3番目ですけれども、「『共に支える教育を進めます』とあるが、何を支えるのか明確になってない。」というご意見がありまして、これは「子どもの学びを共に支える教育」というのを入れることによって、何を支えるのかということをきちんと表したいと考えます。よろしいでしょうか。

それから、下から2番目の「『誰もが輝きあう』というのは表現がおかしいのではないか。」という点。いや、これはもうおっしゃるとおりで、「輝きあう」という日本語は余り使わない。「誰もが輝く」にするという、非常に単純な修正ですけれども、気づいていただいてよかったです。考えてみればおっしゃるとおりです。

それから、「『学び合い』とあるが、『共に学ぶ』と『学び合い』は意味が異なる。『共に学ぶ』ほうがいいのではないか。」ということですが、私たちの意図は、自分も学び相手も学ぶ、かつお互いに学んだことを伝え合って次代にも継承するというものですので、これは「学び合い」という原案どおりでいきたいんですけれども、「共に学ぶ」と「学び合い」の区別は何かと言われると、実は部分的には重なり合っちゃうんですけれども、やや広い概念の中に学び合いというのが含まれている。ここは原案どおりでクリアしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。ありがとうございます。

皆さん方のご協力でようやく最終的な案として固まったということにいたしたいと思っております。これを基本的に最終案とすることで、皆さんよろしゅうございましょうか。これをこの委員会といたしましては教育ビジョン案としたいと思っております。

一部足し込むところや修正が必要となるところであるとか、カラーコーディネートの部分だとか、それは申しわけありませんが、私並びに職務代理者ともども事務局と一緒に協議をしますので、委員長一任ということでしたいただければ幸いなんです、よろしゅうございましょうか。

委員一同 はい。

委員長 お願いいたします。ありがとうございました。

さて、それでは事務局から今後の進め方、スケジュールというところを含めまして説明をいたしたいと思っておりますが、よろしく申し上げます。

庶務課長 活発なご議論どうもありがとうございました。これをもちましてパブリックコメント前のビジョン案ということで確定をさせていただきましたが、今、委員長がおっしゃったように、委員長、職務代理人、事務局とで修正することがあるのをご理解いただきたいと思います。

いよいよ今後、区の内部決定を通りまして、最終的には教育委員会でこの案をパブリックコメントの案として決定をさせていただきます。

なお、パブリックコメントにつきましては、現在のところ12月下旬から1カ月間を予定してございます。

なお、後ほど教育改革推進課長のほうからご説明いたしますけれども、1月14日土曜日に座・高円寺2におきまして教育ビジョンをテーマにしました、毎年開催をしているところなんですけれども、教育シンポジウムを開催させていただきますので、そこでもぜひご意見をいただきたいと思います。

このパブリックコメントを経まして意見をいただくことになろうかと思っておりますので、この案を修正させていただきます。本来であればその時点で一度委員会を開催してご審議をいただくところなんですけれども、区のほうも予算の審議というのが2月に始まってしまっていて、なかなかいとまがないということもございまして、委員長、職務代理人と私どもでまた修正をさせていただいて、皆様方のところにそれをお送りして、意見を伺うというような形にさせていただきます。

なお、その修正が終わりまして、このビジョンの最終案ですけれども、次回、第6回になりますが、現在のところ3月下旬に開催を予定してございます。こちらにつきまして、まだ議会等の日程も全く決まっていない状況ですので、改めて日程調整をさせていただきたいと思いますが、最終の策定委員会になりますので、さほどお時間はかからなくても済むような形にぜひ事前修正、ご意見をいただくような形で努めてまいりたいと思っております。

以上でございます。

委員長 ありがとうございます。先ほどの説明どおり、次回、3月下旬だそうですが、最後の策定委員会となります。今までの集大成となりますが、これはまだ具体的な日程候補までは決まっていないのでしょうか。

庶務課長 はい。まだ本当に決まってないんです。

委員長 そうですか。

庶務課長 暫定的に申し上げますと、3月21日、水曜日なんですけど、この夕方、多分4時過ぎぐらいを暫定的に予定させていただいて。ただ、まだ議会等が決まっていないので、修正もあるということでご容赦いただきたいと思います。

委員長 じゃ、クエスチョンマークつきで手帳のほうに押さえておいていただくということに

でしょうか。よろしくお願いたします。

それでは、先ほどもございましたが、教育シンポジウムの件で担当課長からの説明があると伺っております。どうぞ、お願いたします。

教育改革推進課長 教育改革推進課長の齊藤でございます。

ただいま参考資料としておつけさせていただいております「すぎなみ教育シンポジウム」のご案内をさせていただきます。

現在の教育ビジョンにおきましても、いいまちはいい学校を育てる、学校づくりはまちづくりという考え方のもとで、「地域と協働する、学校をつくります」を目標として定め、数々の事業を展開してございます。その中でも学校支援本部と地域運営学校につきましては重要課題として順次実施校の拡大に努めてまいりました。その事業内容の周知と理解を図るために、毎年その実施校、活動している学校における取り組み内容について発表させていただいて、それを踏まえて関係者によるシンポジウムを開催してございます。

このシンポジウムでございますが、本年度につきましては今回お話しさせていただいております新たな教育ビジョンが策定されるということと、また内容につきましても、「共に学び、共に支え、共に創る杉並の教育」をテーマとしておりますので、新教育ビジョンの内容をもとに、今後の地域、保護者と学校とのかかわりを含めまして、「10年後の杉並の教育を語り合おう」をテーマに、意見を交わすシンポジウムにしたいと考えております。

そこで、基調講演につきましても永井先生にお願し、シンポジウムのコーディネーターである進行を坂野先生にお願しております。また、登壇者の一人に本会委員の学校の先生を代表いたしまして、秋山校長先生にお願しております。

といったこともございますので、来年年明け早々のお忙しい時期ではございますが、参加する関係者の方々とともに今後の杉並区の教育について考えていきたいと考えておりますので、他の委員の皆様におかれましても、お時間の許す方につきましては、座・高円寺2、まだまだ新しく、杉並区の特徴的な施設でもございますので、ぜひご参加をお願したいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

委員長 ありがとうございます。

ほかに何か連絡事項ございますか。

庶務課長 特段ございません。

委員長 ありがとうございます。3時15分ちょっと前ですが、所定の時間おおむね終了いたしました。本日の委員会、以上で閉会といたします。皆さん、どうもありがとうございました。